

「使徒の働き」について

1. 著者：

ルカ（ルカ伝の続きとして）：パウロの良き助け手として、その第二次伝道旅行以来同道した。61年、ローマで囚われていたパウロが釈放されて間もなく記された。

2. 宛先：

テオピロ：キリスト教の理解者であり、(多分)ローマの高官。この執筆のスポンサーであったと思われる。

3. 執筆目的：

ガリラヤの片隅で始まったキリスト教が、世界的宗教に発展した理由は何かを、歴史的経過を辿りつつ明らかにすること。

4. 執筆の手法：

- ・教会の誕生(30年)から、パウロの幽囚(59—61)までの主な出来事を、主イエスの宣教命令(1:8)の実現という骨格で描く。
- ・内容は、著者自身の目撃記事、信頼できる人々とのリサーチに基づく。
- ・当時のローマ政治指導者の名前を細かく記すことによって、現代の私たちが年代を特定することに貢献

5. 私たちにとっての意義：

新約聖書の書簡部分で教えられている救いや聖化が、初代教会の聖徒たちにどのように経験されていたかを示す。

6. 鍵の聖句：

1:8「エルサレム、ユダヤ全国、サマリヤ、地の果てまで」

<アウトライン>

■序言：使徒達への委託 1:1-11

■教会の誕生<エルサレム> 1:12-7:60

弟子たちの祈り 1:12-26

ペンテコステ 2:1-47

最初の奇跡 3:1-26

最初の迫害 4:1-37

最初の裁き 5:1-16

二回目の迫害 5:17-42

執事の選任 6:1-7

最初の殉教者 6:8-7:60

■転換期<サマリヤ他> 8:1-11:18

教会の離散 8:1-25

エチオピヤへ 8:26-40

サウロの回心 9:1-43

コルネリオの救い 10:1-11:18

■異邦人への拡大＜パウロの伝道＞11:19-21:14

アンテオケ教会 11:19-30

ヘロデによる迫害 12:1-25

パウロの第一次伝道旅行 13:1-14:28

エルサレム教会会議 15:1-35

第二次伝道旅行 15:36-18:22

第三次伝道旅行 18:23-21:14

■パウロの幽囚 21:15-28:31

エルサレムで捕縛 21:15-23:35

カイザリヤでの幽囚と裁判 24:1-26:32

ローマへの護送 27:1-28:16

ローマでの幽囚 28:17-31

<「使徒の働き」主な年代>

- 30 キリストの十字架・復活・ペンテコステ
美しの門の奇跡
ステパノの殉教
- 34 頃 サウロの回心
- 44 頃 コルネリオの救い
ヤコブの殉教
アンテオケ教会の誕生と宣教活動
- 46-48 パウロ第一次伝道旅行
- 48 エルサレム会議
- 49-51 第二次伝道旅行
- 52-56 第三次伝道旅行
- 56-58 カイザリヤで幽囚・ローマへの護送
- 59-61 ローマで幽囚